

令和５年 山武市議会第３回定例会会議録 (第３日目)

○議長（北田 守君） 日程第１ 一般質問を行います。

はじめに、さんむ21、石川和久議員の代表質問を許します。

石川和久議員、御登壇願います。

石川議員。

○１２番（石川和久君） 議席番号12番、さんむ21、石川でございます。議長に質問の許可をいただきましたので、会派を代表いたしまして、質問をさせていただきます。

まず、９月８日の台風13号の接近に伴う集中豪雨により、山武市においても、床上浸水や土砂災害、道路冠水などの被害が、多数、報告されました。会派を代表いたしまして、被害に遭われた方々に、心からお見舞いを申し上げます。

さて、４月の山武市議会議員選挙において、市民の皆様にも再度御負託をいただき、また、この場所に立てることができました。この場に立つと、改めて身が引き締まる思いでございます。

また、会派においても、お二方の先輩議員が御勇退され、新たに新人の渡邊健一議員が加わり、３名での出発となります。

本日、傍聴席に、小野崎県議が来ておられます。我が会派、さんむ21の結成当時の会派長でございます。先輩の託された思いと新しい発想を組み合わせ、新しいさんむ21として、山武市福祉向上のため、この４年間、しっかりと取り組んでまいります。

執行部の皆様には、これからも明快な御答弁をよろしくお願いを申し上げ、質問に入ります。

小松地先市有地の土砂搬入については、昨日、会派、新しい風 S a m m u から、多くの質問が行われ、改めて一連の流れを認識させていただきました。

その質問でもありましたが、この事案では、既に地質調査等業務委託費、飛散防止対策工事費、第三者委員会に係る費用など、既に4,000万円を超える費用が使われております。

また、今回の定例会においても、小松地先市有地管理事業として、2,167万円計上されております。一連の事実関係が不透明で、責任の所在も不明確なこの状況で、本来使わなくてもいい貴重な税金が使われていることに、非常に憤りを感じておる次第でございます。

市長は、今、このことをどのように考えていますでしょうか。また、市民にどう説明していくのか、伺います。

○議長（北田 守君） 市長、御登壇願います。

○市長（松下浩明君） さんむ21、石川和久議員の代表質問、小松地先の市有地についてお答えさせていただきます。

これまで、地質や水質の調査業務、土砂の飛散防止対策等の工事費など、市民の皆様からの貴重な税金を投入していることにつきまして、非常に重く受け止めております。

さきの臨時議会で設置の御承認をいただきました第三者委員会において、事業の実態把握がされ、事実関係の報告が提出されることとなります。その内容をしっかりと検証し、適切な対応を図ることで、市民の皆様への説明責任を果たすよう努めてまいりたいと思っております。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） 今、御答弁で、第三者委員会で、これから実態把握がされて、説明責任を果たしていくということです。先ほどもお話ししましたけれども、実態が把握されていない、責任の所在も不明確の中で、このような話を、私も議員として、今、到底、市民に説明ができません。できない状態でございます。

地元住民のために、飛散防止対策や第三者委員会に係る費用は、仕方ないことだと思っております。第一に地元住民の安全対策を講じることは、やるべきことであると、私も考えておりますが、これからたくさんお金もかかると想定しておりますし、これから、補正予算で出てくることも覚悟はしております。

先ほどから申し上げますけれども、実態把握がされ、責任の所在が明らかにならなければ、これ以上の税金の支出は、市民には説明できないと私は思っております。今後、この事案に関する予算については、議会としても、しっかり議論し、審議してまいりたいと思います。

昨日の質問などから、一連の流れを伺うと、業者との契約内容や管理体制など、不透明な部分が多く、今後、第三者委員会において解明されていくものと思われれます。

そこで、埋立て工事の発注方法について伺います。市有地の湿地部から悪臭がするというので、埋立てを行い、約1,400万円もの金額を、重機などの賃借料として、単価契約で行ったものと認識しております。この単価契約とは、どのようなものか、伺います。

○議長（北田 守君） 総務部長。

○総務部長（小川宏治君） 単価契約についての御質問にお答えいたします。

単価契約とは、一定期間継続して給付を受けるという契約を締結する場合に、契約時に、数量を確定できないため、実績の数量に単価を乗じた金額を支払う契約となっています。

単価契約の例といたしましては、年間を通して購入するコピー用紙などについて、用紙の大きさの種類ごとに、単価を設定した契約を結び、実際の購入数に応じて支払いをするものなどが挙げられます。

土木課において締結している建設資材等単価契約につきましては、道路等の維持補修に必要な資材の購入や機材の借り上げ等について、あらかじめ複数の業者から見積りを徴し、最低価格で単価契約の締結をした上で、区や市民からの要望等があった場合には、単価契

約を締結している業者の中から、発注する業者を選び、作業等を依頼することで、迅速に対応するためのものとなっております。

以上です。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） その単価契約ですけれども、今回の運用の方法で、何か問題はなかったのか、伺います。

○議長（北田 守君） 建設環境部長。

○建設環境部長（今関 務君） 今回の業務につきましては、発注時に総量が確定できず、業務内容も既に契約済みの建設資材等単価契約で締結してある内容と合致するものであったことから、機材の借り上げによる単価契約で執行したものでございます。

しかしながら、今回の事業内容や規模の大きさ等を鑑みれば、搬入する土砂の数量を明確にした上で、別途、工事請負契約として執行することのほうが、適当ではなかったのではと考えられます。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） このようなことですけれども、再発防止に向けて、今後、どのように改善を図っていくのか、伺います。

○議長（北田 守君） 建設環境部長。

○建設環境部長（今関 務君） より適正な執行を図るよう、心がけてまいりたいと思います。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） ぜひ、よろしくお願いいたします。

また、契約で、発注する際にも、近くで工事をされていたからということで、昨日、お話がありましたけれども、そういったこともいかなものかということを感じた次第でございます。そういった改善するところは、契約内容にかかわらず、たくさんあると思いますので、その辺の周知徹底をしっかりとお願いしたいと思います。

臨時会においても、土砂搬入事案については、決議書を提出させていただいております。また、会派といたしましても、原因の究明及び責任の所在を明確にすること、再発防止策の策定、管理体制の強化、市民への説明責任をしっかりと果たすことを、強く要望させていただきます。

次の質問に移ります。

道路行政について。道路は、人や物を運ぶ交通機能であり、市民に最も身近なサービスであります。

また、事故や災害時などでは、緊急車両のスムーズな往来や避難道としての役割など、重要な社会インフラとなっております。

市内においては、県道、国道をはじめ、多くの道路整備が進められており、地域住民の安全性・利便性向上に向けて、早期完成が待たれるところです。

そこで、県道成田成東線の早船地先で進められているバイパス整備について、現在の進捗状況を伺います。

○議長（北田 守君） 建設環境部長。

○建設環境部長（今関 務君） 県道成田成東線早船地先におけます、バイパス整備の進捗状況につきましては、千葉県山武土木事務所へ確認したところ、まとまって道路用地を確保した部分について、工事を実施していると聞いております。

また、県道と交差する場所に、木戸川から取水する農業用水路があり、県道工事と水路工事の調整を市の農政課と協議しておるところでございます。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） 今後の見通しについて伺います。

○議長（北田 守君） 建設環境部長。

○建設環境部長（今関 務君） 千葉県山武土木事務所へ確認したところ、引き続き、用地取得に努め、まとまった用地が確保できた箇所について、工事を進めていくと聞いております。

なお、具体的なスケジュールが示されてはおりませんが、早期完成に努めますというようにも聞いております。

以上です。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） こちらのバイパス整備に伴って、国道126号線に、新たな交差点ができる計画となっております。柴原踏切方向から国道へ向かうと、国道交差点手前がS字形態のカーブとなっておりますので、大変危険であると感じております。

交差点の協議を行い、安全対策などの計画はあるのか、伺います。

○議長（北田 守君） 建設環境部長。

○建設環境部長（今関 務君） 御質問の国道交差点手前のS字形態のカーブになっている路線は、市道柴原・木戸線で、現時点でお示しできる交通安全対策の計画はございませんが、バイパス整備の道路協議が継続的に行われております。

この協議内容と道路利用の状況を踏まえ、地権者の理解が得られるように、今後進めていきたいと考えております。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） 柴原踏切から下、上横地地先では、これから、消防署の建設が控えております。今後、緊急車両の往来も多く予想されることと思います。安全対策は、必ず必要であると考えております。

先ほど、部長の答弁でもございましたけれども、地元の住民の方との協議は、もちろん、大前提ですけれども、今のS字の線形も見直して、安全対策を図っていただきたいということを、私のほうから要望させていただきます。よろしくお願いいたします。

この質問は、今回で2回目となります。また、質問をするかもしれませんが、そのときに進捗を聞かせていただきますので、よろしくお願いいたします。

次に、県道成東酒々井線でございます。こちらは、山武成東インターチェンジから国道126号線までの幹線道路であり、市の中心地につなが路線でございます。経済活動にも欠かせない路線であり、地域住民の皆さんにとっては、日常生活を営む上で、極めて重要な路線となっております。

しかし、市の中心地、津辺地先に下りてくると、全般的に道路の幅員が狭く、大型車が相互通行をできない厳しい場所もあります。

さらに、成東高校生の通学時の主要路線ともなっており、グリーンベルトや注意喚起等の安全対策はされているものの、路線が狭く、また、見通しも悪く、危険な場所であると感じております。

地域住民の安全性・利便性向上のため、一日も早い道路拡幅整備が必要と考えますが、市の見解を伺います。

○議長（北田 守君） 建設環境部長。

○建設環境部長（今関 務君） 現在、国道126号線のすぎのや前交差点の整備が完成しており、以前に比べ、渋滞が緩和されております。

当該路線は、圏央道、山武成東インターチェンジに向かう重要な路線だと認識しております。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） こちらは、県道となる成東酒々井線でございますけれども、この整備については、県の管轄でございます。拡幅等の要望を行っているのか、伺います。

○議長（北田 守君） 建設環境部長。

○建設環境部長（今関 務君） 成東酒々井線、津辺地先につきましては、今年6月に、山武土木事務所へ要望いたしました。都市計画道路成東南口線へつながる重要な交差点にもなりますので、千葉県と連携しながら、進めていきたいと考えております。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） ぜひよろしくお願いいたします。

本日は、千葉県議会議員の小野崎議員も来ておりますので、私もこの話はさせていただいております。市でやる事業ではないので、なかなか、思うように進まないことはありますけれども、後ろに力強い先生がいらっしゃいますので、私も引き続き要望しながら、早期実現に努めてまいります。

次の質問に入ります。

防災対策について。市では、自助・共助の取組を促進し、地域における地域防災力の向上を図ることを目的として、山武市地域防災力向上計画を策定し、令和5年4月に改定を行っております。その計画の概要について伺います。

○議長（北田 守君） 総務部長。

○総務部長（小川宏治君） 山武市地域防災力向上計画について、お答えさせていただきます。

山武市地域防災力向上計画は、大きく3項目を主眼としております。

1点目は、自主防災組織、以下、組織と略させていただきます。自主防災組織の新規設置と活性化でございます。現在の組織数、90組織を、令和7年度末までに105組織の設立を目指します。

また、令和4年度の活動補助金活用団体が20組織であったものを、令和7年度末までに、78組織として活性化を図ってまいります。

地域防災リーダーたる防災士についても、令和7年度末までに、毎年5名、計15名の防災士資格取得者の増加を目指してまいります。

2点目は、避難行動要支援者の確実な避難のための個別避難計画の作成でございます。内容は、要介護度3から5の高齢者や、身体障害者手帳1級・2級等を所持している方等、自ら避難することが困難な方のうち、ハザードマップで危険な区域に住む方など、計画作成の優先度が高いと判断する方について、努力義務として示されております、令和7年度末までに作成を目指すものでございます。

3点目は、避難環境の強靱化として、避難情報等の確実な伝達のための戸別受信機の整備でございます。

内容は、防災行政無線の多重化を目的とし、ホームページ、SNS、安心安全メール等で、情報発信をしておりますが、スマートフォンを保有していない、または、取扱いに不自由を感じている方などに対し、携帯電話の電波を活用した戸別受信機を貸与するものでございます。

以上です。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） 今、それぞれ目標等を答弁いただきました。それぞれに目標がございますが、その目標達成のための取組について伺います。

○議長（北田 守君） 総務部長。

○総務部長（小川宏治君） お答えいたします。

まず、組織の新規設置につきましては、広報紙で、その活動を掲載、紹介し、周知するとともに、設置、設立していない区長や自治会長に、区長回覧等で設立の呼びかけをして

おります。

組織の活性化を目的として、実際に活動した組織に対し、自主防災組織活動補助金を交付しております。この補助金の活用数を増やすため、これらの制度があることを広報紙に掲載、また、機会を捉えて、周知をしております。

防災士の資格取得につきましては、市民に対し、ホームページや広報紙で講習会の実施を周知するとともに、防災士協会を介しての資格取得を促しております。

2点目の個別避難計画でございますが、令和4年、試験的に1名の計画を作成しております。作成に当たり、支援を受ける方、支援する方の双方に対する制度の説明が重要であることや、計画の作成が必要な避難行動要支援者の家族、親族、知人等の詳細な状況を知るケアマネジャーの協力の重要性を実感しました。

令和5年度は、計画作成に当たり、ケアマネジャーや、その所属する事務所の協力を得られるための報酬等について、他の自治体の要領を確認し、要綱の策定や財源の確保といった基盤を整備し、令和6年度から、本格的に作成に取りかかってまいります。

3点目の戸別受信機の貸与につきましては、貸与の制度や条件について、ホームページや広報紙等を活用し、周知を図りながら、事業を継続してまいります。

以上でございます。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） こちらの計画は、令和7年度までということで、3か年でございます。今、取組を答弁をいただきましたけれども、こちらの目標達成に向けての進捗管理については、どのように行われていくのか、伺います。

○議長（北田 守君） 総務部長。

○総務部長（小川宏治君） お答えいたします。

まず、自主防災組織の新規設置につきましては、各年度、5組織を設立し、令和7年度までに、15組織の増加を目標としております。

活動補助金活用組織は、令和4年度は20組織を、毎年3組織の増加を図り、令和5年度は23組織、令和6年度は26組織、令和7年度は29組織の計78組織を目指してまいります。

防災士の資格につきましては、毎年5名の取得で、令和7年度までに15名の取得を目指してまいります。

個別避難計画につきましては、令和5年度は、比較的、作成が容易な方を絞り込んでの作成を行い、令和6年度以降、本格的に着手し、令和6年度は50%、令和7年度には100%を目標に、作成を図ってまいります。

戸別受信機の貸与につきましては、戸別受信機を必要とする方に貸与できるよう、制度について周知を図りつつ、今までの業務を引き続き実施してまいります。

以上です。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） ありがとうございます。

山武市地域防災力向上計画の主な理由は、自助・共助の取組の強化ということでございます。災害時には、自助・共助の重要性は、今、私がここで言うまでもなく、皆さん承知のことだと思います。いつ、また、大きな災害が来るかは分かりませんので、目標に向けて、しっかりと取り組んでいただきますようお願いをいたします。

次に、避難所運営委員会が設立されたと聞いております。避難所運営委員会の現状と今後の取組について伺います。

○議長（北田 守君） 総務部長。

○総務部長（小川宏治君） 避難所運営委員会についての御質問にお答えいたします。

現在は、大富小学校区を対象とした大富小避難所運営委員会が、昨年11月に設立しております。設立後、今年6月初旬の大雨や9月8日の台風による避難所の開設、市の計画した避難訓練などで、実働していただいております。

地域住民をよく知る方々で構成されていることもあり、避難行動要支援者の避難支援から避難所の開設、避難者の受入れまでスムーズに行われ、非常に有意義な組織であると感じております。

将来的には、小学校区で運営委員会が設立できればと考えております。そのため、市民の皆様、この運営委員会の有効性について知っていただくため、大富小学校避難所運営委員会の活動状況を広報紙に掲載し、紹介しております。

今後もホームページや広報紙等を活用して、運営委員会の活動状況を紹介していくとともに、運営委員会の中心的な存在となり得る防災士等に、委員会の設立について、直接、働きかけをしてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） 先ほどの防災士の確保等は、この避難所運営委員会につながってくると思います。

台風13号の大雨のときに、大富小学校で活躍されておりました避難所運営委員会の方々を、私もしっかり見せていただきました。そういった話も、渡邊健一議員から関連質問がございますので、よろしく願いいたします。

次に、教育行政について。公園施設について伺います。

公園は、誰もが利用できる身近な公共施設でございます。その目的は、様々でございます。市民の憩いの場、防災の拠点、地域社会の多様性を尊重した、最近、よく耳にします、インクルーシブ公園など、近年、求められる役割は多様化し、また、コロナ禍で、密を避け、公園などで遊ぶ機会が増えるなど、ますますニーズが高まっております。

平成10年にオープンしたさんぶの森公園は、施設の老朽化等により、現在は、グリーンタワー展望室、キャンプデッキ、バーベキュー施設の利用が終了し、大きな変革期を迎えております。

また、グリーンタワーなどの施設老朽化に伴う改修費用の増大などの課題も抱えており、今後、公園整備の在り方が、非常に重要であると考えております。

しかしながら、このような変革する時期では、様々な手法により、魅力ある公園へと生まれ変わらせるチャンスでもあります。

グリーンタワー展望室については、令和3年3月31日をもって終了し、タワーとしての機能を有しない中で、本当にこの1億4,700万円ものお金をかけて、修繕が必要なのか。防災アンテナの機能は有してはいますけれども、そこをどこまで比較してきたのか。まだまだ議論が必要であると考え、令和5年度当初予算の予算審査特別委員会では、反対の立場で、発言をさせていただきました。

そこで伺います。さんぶの森公園にあるグリーンタワーの改修事業について、今年度、入札が不調となりましたが、その後の進捗はどうか伺います。

○議長（北田 守君） 教育総務課長。

○教育総務課長（川島美雄君） さんぶの森公園グリーンタワー外壁等改修工事における入札につきましては、4月の第2回入札と7月の第7回入札に、それぞれ公告しました。

1回目の入札については、入札参加者がいなかったため、2回目の入札に当たり、設計内容の見直しや単価における時点修正を行ったものの、2回目の入札も、入札参加者がおらず、入札不調となっております。

現在は、年度内の発注に向け、今後の在り方について検討しているところでございます。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） グリーンタワーの改修事業は、令和元年にも工事を予定し、入札不調となり、現在に至るものと認識をしていますが、令和元年度に予定していた工事内容と比べ、規模が縮小しているものと思われますが、縮小するに至った経緯について伺います。

○議長（北田 守君） 教育総務課長。

○教育総務課長（川島美雄君） 令和元年度のさんぶの森公園グリーンタワー改修工事は、展望塔として、エレベーターなどを含めた改修を予定していたものの、落札者がおらず、入札が不調となりました。

今後のグリーンタワーの在り方も含め、令和2年度に、グリーンタワー改修の方向性について、解体も視野に入れながら、協議を行いました。協議の結果、防災行政無線のアンテナ塔としての機能を有していることから、新たに防災行政無線の建て直しやグリーンタワーの改修内容及び維持管理におけるコストの削減なども踏まえ、展望塔としての活用を

やめ、必要最小限の改修を行うものとし、電波塔として活用する方向で調整を行った経緯がございます。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） 今、答弁がありましたけれども、グリーントワーの解体も視野に入れた検討を行ったということです。設置されているアンテナ塔の代替施設といったものも検討してきたのか、どうか。アンテナ塔のみの機能を有するという事で、あのタワーが必要なのかということで、どこまで検討してきたのかということを伺いたいと思います。

○議長（北田 守君） 教育総務課長。

○教育総務課長（川島美雄君） タワーを撤去し、防災行政無線の代替施設を建設する場合と、現状のタワーについて、必要最小限の機能を残して、改修工事を行った場合の比較について検証を行いました。

その結果でございますが、タワーを撤去し、防災行政無線の代替施設を建設した場合の工事費のほうが、改修費を大幅に上回ることが判明した経緯がございます。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） グリーントワーの機能として、今、防災行政無線のアンテナ目的となり、残したほうが、費用対効果がいいというような答弁だったと思います。

これは、市長に伺います。市長は、もちろん、地元のさんぶの森公園ということで、市長の非常に大切なものと言ったらいいか、シンボリックに残していきたいというような考えをお持ちだということです。今後、これをシンボルタワーとして残していくのか、どうか、伺います。

○議長（北田 守君） 市長。

○市長（松下浩明君） グリーントワーの改修工事を実施するに当たり、物価の高騰により、工事費用が多額となることや、施工工事内容の複雑性、また、防災行政無線の機能維持を含めた、今後の維持管理の検討など、スムーズな工事着手が難しい状況にありました。これまでの経緯と現在の市の状況を踏まえ、展望施設として、多額の費用をかけて残していくことは、難しいと考えております。

現時点では、防災行政無線としての重要な施設でありまして、一刻も早く改修工事を行うことが急務であると思っております。

また、私の地元ということでございましたけれども、確かに大切ということもそうですが、やはり、撤去ということを考えたときに、地元だけに、あそこを使っている方、地域の方々の声が入ってくるんです。

ですので、そういう声を聞くと、シンボルも含めての防災行政無線のアンテナ塔というか、そういうものも含めて、残していくということも、また、一つのことと思っております。

す。ですので、今現在は、一刻も早く改修事業を行うことができればと考えております。

以上でございます。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） 市長、ありがとうございます。

昨日も、公共施設の整理や在り方について、いろいろと議論がされました。合併もしておりますし、施設が多い山武市にとって、古い施設は、どうしても、やっていかなければならないことだと、昨日の質問でもありました。私も、そのようには思っております。

先ほども市長がお話ししましたとおり、やはり、どうしても地元の方々の御意見、市民の皆様の活用状況等を鑑みて、このことは進めていかなければならないことは承知しております。

過去に、市長の気持ちとして、シンボリックなものとしては残していきたいという発言を聞いておりましたので、仮にシンボルとして残していくのであれば、後世に責任を持って残していけるような、市長が責任を持って後世にあのタワーを残したんだということを、しっかりと明確にされ、引き継がれていけるようなことをしていただければいいと思っております。私は、それは、市長の決断次第だと思っております。

しかしながら、防災のアンテナしか有していない現状でございますから、今後、どうなるかは分かりません。新たに防災塔として、建てなければいけない。お金が少しかかるけれども、これからの修繕費を見込んだら、新しく建てたほうがよかったのかもしれない。

様々な議論もしてきたのかもしれませんが、また、今後の防災アンテナの在り方についても、方向性が変わってくると思います。無線でよくなる、あの塔が必要なくなるかもしれない。そういったときのために、今、最小限の改修を行うということで理解をして、今回、この質問は、引き下げようと思っておりますけれども、今後とも、市長の考え次第で、さんぶの森公園の整備については、しっかりと努めていただきたいと思います。

休日のさんぶの森公園利用の状況を見ると、子どもを連れた親子の利用が目についたところですが、今は、さんぶの森公園には、幼児対象となる遊具の設置がない状況です。財源の確保が難しい中、施設の維持管理で、いっぱいとは思いますが、今後のさんぶの森公園の整備の在り方について、市長に改めて伺います。

○議長（北田 守君） 市長。

○市長（松下浩明君） ただいま議員からのお話も受けました。今現在、電波塔ということでは、本当に大事なところだと考えております。将来的には、また、いろいろな形になるかと思っておりますので、そのときは、そのときで、また対応していただければと考えております。

さんぶの森公園につきましては、議員がおっしゃったとおり、開園から、もう25年が経過しております。開園当時と比較しますと、グリーンタワーの展望機能、また、バーベ

キューキットが廃止になったほか、公園利用者における施設の利用状況を踏まえて、施設の維持管理と改修、更新を行い、利用者の安全確保に努めてまいりたい。やはり、これが、第一だと考えております。

様々な利用者、年齢層に合った施設整備が求められてくるところでありますが、まずは、利用者の安全確保の観点を第一ということで、施設の老朽化に伴う改修事業を優先して、取り組んでまいりたいと思います。

また、公園の下のほうで、子どもたちが遊ぶ遊具が足りないということがありましたけれども、あそこも下りていってみると、下の砂地が出てきてしまっています。私は、何度か行ったのですが、やはり、あれは、今まで手入れをしていなかったというところが見えてきたと思いました。

随分昔ですが、以前、千葉市のほうの公園で、その公園の周りの木を切った後に、お子さんが転んでいて、頭か何かをやってしまった事件があって、管理責任ということが求められております。

さんぶの森公園でも、中にあった石ころにつまずいて、転んで、けがをしたというところで、これも、同じく管理責任ということでありました。

市民のために造って、憩いの場として提供したものが、そういうことで、けがをされたりして、困りますので、やはり、さんぶの森公園も、タワーだけではなくて、そういう面の安全策をしっかりと講じさせていただきたいと考えております。御質問、ありがとうございます。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） ぜひ、よろしくお願いいたします。

こちらに関連質問がございますので、よろしくお願いいたします。

次に、部活動の地域移行について伺います。

部活動の地域移行の目的の一つは、教員の働き方改革があります。令和4年度文部科学省が行った教員の勤務実態調査結果によると、中学校教員は、1日当たりの勤務時間が、平日は11時間1分、土日は2時間18分、国が残業の上限と示している月45時間を超えると見られる教員が、中学校で77.1%に上ることが分かっております。

また、土日の部活動指導に従事している時間数が1時間29分と、部活動指導に係る負担が多いことも、取って分かります。

文部科学省では、教員の処遇の改善や働き方改革を進めてまいりましたが、勤務時間は減少してきているものの、依然、長時間勤務が続いているとされています。

そこで伺います。

休日の部活に係る時間なども含めた、市内中学校教員の勤務状況について伺います。

○議長（北田 守君） 子ども教育課長。

○子ども教育課長（加藤直樹君） 市内の中学校における今のような勤務時間ですが、平日は10時間7分、土日は2時間46分となっております。

平日は、国の平均より1時間ほど短い時間となりますが、土日は30分程度長くなっております。これは、今、議員がおっしゃったように、部活動の時間が影響しているものと考えております。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） 今、市の状況も、国の状況とさほど変わりがないという御答弁をいただきました。

このような環境では、教育の質の低下も懸念されるところであると、新聞等で報道もされております。山武市にとっても、教育の質の維持、また向上させていくには、働き方改革、処遇の改善は大きな課題であり、より一層推進していく必要があると考えますが、市の見解を伺います。

○議長（北田 守君） 教育長、御登壇願います。

○教育長（内田淳一君） 教員の働き方改革の教育委員会の見解ということでお答えをさせていただきます。

働き方改革について、各学校では、これまでに教職員の意識改革をはじめ、学校行事の精選ですとか、部活動の時間短縮、ICTを活用した事務の効率化、地域の方々による学校支援など、様々な方策に取り組んでおります。教育委員会としても、その取組を指導・支援してまいりました。

教職員の長時間勤務を根本的なところで改革するためには、国による授業時数の大幅な削減ですとか、大幅な人員増ということが不可欠であるとは考えております。

山武市教育委員会としましても、働き方改革の取組を、市として、さらに強化していけるよう、現在、下校時刻を早める工夫ですとか、議員おっしゃるように、休日の部活動の地域移行などについても、取組を始めたところでございます。

今後も、教職員の勤務時間の適正化に向けた働き方改革に取り組んでまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） 教育長、ありがとうございました。

部活動地域移行のもう一つの目的は、少子化により、部員が集まらず、競技ができない、大会に出られない、また、経験のない教師が指導をせざるを得ないなど、中学校の部活動を取り巻く環境の課題、また、解決のためであると捉えております。

今年度から、部活動地域移行に伴って、中学校体育連盟では、一定の条件の下、地域のスポーツクラブ単位でも、出場を認める参加緩和がなされました。市内でも、既に合同チ

ーム等での参加はされていると聞いております。今年度の合同チームや地域クラブの参加状況は、どうか伺います。

○議長（北田 守君） 子ども教育課長。

○子ども教育課長（加藤直樹君） 今年度の合同チーム等の参加についてお答えいたします。

市内の中学校では、令和5年度の総合体育大会で4種目、秋季大会で5種目の合同チームの参加がありました。

例えば、総合体育大会の野球では、成東中学校と成東東中学校が、また、サッカーでは、成東東中学校と山武中学校、山武望洋中学校が合同チームで、参加しました。

さらに市町を越えた合同チームも参加しており、例えば、秋季大会のバスケットボールでは、成東中学校と東金北中学校が、ソフトボールでは、東金中学校と山武望洋中学校が、合同チームで参加しました。

山武郡市内全体では、総合体育大会で、11種目中、4種目、秋季大会で、12種目中、6種目の合同チームの参加がありました。

クラブチームの参加についてですが、令和5年度から、学校対抗の大会にも、クラブチームでの参加が可能となり、山武郡市内でも、バレーボールや柔道が、クラブチームとして参加しております。

以上です。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） 合同チームやクラブチームが参戦して、多様な受皿が、少しずつは整備されてきたと思います。

ここから、課題や今後の方向性、いろいろな市の取組等々を聞いていくつもりでございましたけれども、昨日の杉山議員の質問と大分重複しますので、こちらについては、省かせていただきます。

これから、また、国の具体的な方策がいろいろと示されてくると思いますけれども、山武市に合った教員の負担の軽減、受皿、指導の確保などに当たって、充実した環境に努めていただければと思います。こちらも要望させていただきます。

教育行政については関連がございますので、よろしくお願いいたします。

次に、成田空港について伺います。

N A A（成田国際空港株式会社）は、2023年8月末の発表で、2023年7月の空港運用状況は、国際線旅客数は、2か月連続で200万人を突破し、国際線外国人旅客数は、前年比6.8倍で、コロナ禍前の9割まで回復と発表がございました。

また、新聞報道等では、今年のお盆期間中の国際線利用者は、コロナ禍前の2019年と比較して、76%まで回復し、テレビ中継等では、東京都内、全国の観光地でも、訪日外国人

の姿が多く見受けられました。多くの旅行者が、成田空港を利用したと考えられます。

そこで、成田国際空港で、現在、更なる機能強化に伴うB滑走路及びC滑走路の建設が進んでおります。現在の進捗状況について伺います。

○議長（北田 守君） 総合政策部長。

○総合政策部長（荒木康之君） 進捗状況についてお答えいたします。

成田空港会社に確認したところ、現在、B滑走路、C滑走路の早期完成に向け、埋蔵文化財調査や測量調査などを実施しており、本格工事に先立つ準備工事として、B滑走路地区は、東関東自動車道の切り回しに関する工事について、昨年10月から着手し、C滑走路地区は、本年度に高谷川の排水整備工事に着手する予定とのことです。

更なる機能強化は、我が国の成長戦略の一環として、国からの財政支援もいただいております。国にとっても、また地域の発展にとっても、重要かつ不可欠なプロジェクトであると考えており、引き続き、皆様の御協力をいただきながら、環境対策もしっかり講じ、B滑走路の延伸、C滑走路の早期完成に向け、引き続き、丁寧に、着実に進めていくとのことです。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） こちらの質問は、関連がございますので、よろしくお願いいたします。

次に、松尾地域の過疎地域指定について伺います。

令和4年4月1日に、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法により、松尾地域が過疎地域として指定されました。松尾地域の持続的発展に向けた対策を実施することが、目的であると認識しておりますが、現在、市では、どういった事業を行っているのか、伺います。

○議長（北田 守君） 総合政策部長。

○総合政策部長（荒木康之君） 松尾地域の過疎地域指定に伴いまして、取り組んでいる事業についてお答えいたします。

本件は、令和4年度に策定いたしました山武市過疎地域持続的発展計画に基づき、過疎対策事業債を活用し、実施しております。

主な事業としましては、令和4年度は、JR松尾駅周辺の排水対策事業、松尾小学校新校舎整備事業等になります。

令和5年度では、企業誘致促進事業、空港シャトルバス利用促進事業、及びJR松尾駅南側改札設置を目指しております、JR松尾駅周辺整備事業などを実施しております。

また、山武市過疎地域持続的発展計画につきましては、持続可能で魅力的なまちづくりを掲げており、松尾地域における都市機能の誘致、居住を誘導するための整備構想につきまして、現在、策定を進めております。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） こちらも関連質問がございますので、よろしくお願いいたします。

次に、移ります。圏央道とパーキングエリアについて伺います。

市の最上位計画である第3次総合計画では、市のまちづくりの方向性を示す基本構想で、成田国際空港と圏央道ネットワークを意識したまちづくりを推進するとございます。

成田空港の機能強化、圏央道、千葉県区間の全線開通や（仮称）山武パーキングエリアの設置は、これからの市のまちづくりには、欠かせない事業であり、早期実現が望まれるところでございます。

そこで、伺います。現在進められている圏央道、大栄ジャンクションから松尾横芝インターチェンジまでの開通見込みについて伺います。

○議長（北田 守君） 建設環境部長。

○建設環境部長（今関 務君） 圏央道、大栄ジャンクションから松尾横芝インターチェンジまでの進捗状況につきましては、用地取得率は、令和5年3月末現在、99%であり、工事は、用地未取得箇所を除く、全区間で着手しているとのことです。

一方で、砂質土で形成される地質構造の芝山トンネルは、掘削開始後、天端部からの抜け落ち等が発生しており、より強度が低くなる区間の掘削における安全対策を検討するために、有識者による技術検討会を開催し、現計画の工法の検証、追加の補助工法の必要性等を確認し、トンネル上部には芝山町道やゴルフ場があることから、細心の注意を払いながら、慎重かつ安全に工事を進めているとのことでございます。

また、機能補償道路工事においては、入札不調の発生から、工事着手に向け、契約手続中と、国土交通省関東地方整備局千葉国道管理事務所より伺っております。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） 次に、（仮称）山武パーキングエリアの進捗状況です。

（仮称）山武パーキングエリアにつきましては、令和3年に、国、県及び東日本高速道路株式会社の3者で構成される、圏央道（千葉区間）休憩施設調整会議で整備方針が示されており、設置場所は、山武郡市環境衛生組合の北側付近を想定していると伺っております。

圏央道の開通見込みが、令和6年度予定から見直しがされ、新たな見通しを立てているとのことですが、（仮称）山武パーキングエリアの現在の進捗状況について伺います。

○議長（北田 守君） 総合政策部長。

○総合政策部長（荒木康之君） （仮称）山武パーキングエリアの進捗状況についてお答えいたします。

山武郡市環境衛生組合ごみ処理施設の北側付近への整備が計画されている、（仮称）山武

パーキングエリアにつきましては、測量及び地質調査が完了しており、現在、休憩施設についての概略設計を行っているところです。

今後の予定につきましては、現在、実施中の概略設計が完了後、パーキングエリアの計画概要及び用地取得に関する地元説明会を開催し、用地取得に向けた境界確認、幅ぐい設置に着手する予定と聞いております。

○議長（北田 守君） 石川議員。

○12番（石川和久君） ありがとうございました。

こちらにつきましても、関連質問がございますので、よろしくお願いいたします。

以上で、私の代表質問を終わりにします。

○議長（北田 守君） 以上で、さんむ21、石川和久議員の代表質問を終わります。